令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	和歌山県	学校名	和歌山県立新翔高等学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	全学年 総合的な探究の時間・LHR	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	・同和問題についての偏見や差別を許さない態度を育成する。 ・同和問題についての現状や課題についての理解を深める。 ・すべての人の人権が尊重される社会が求められていることについて知る。
実施した内容	・進路実現（進学・就職）のための心構えや権利について学ぶ。（１時間） ・就職に関して、公正な採用選考について学ぶ。（１時間）
工夫した点	・就職する生徒とともに進学する生徒に対しても、自分の将来に関わることであることだと意識できるように促した。 ・「令和７年度新規学校卒業者等の採用と選考について」の冊子をもとに、就職差別を通して授業を行った。 ・和歌山県及び（公財）和歌山県人権啓発センターからの人権啓発ポスター等を掲示し、人権が尊重される環境整備に努めた。 ・子ども会職員と学習支援推進教員・各小中高等学校の人権教育担当教員等との合同会議（月に１回）に出席し、子ども会所属生徒の学校での様子を報告した。生活面と学習面について情報を共有するとともに、小中学校や教育委員会、市役所との連携を図り、学習支援に生かした。 ・東牟婁地方子ども会連絡協議会・東牟婁地方学習支援推進教員等連絡協議会合同研修会に出席し、当地方の人権課題についての研修を行い、今後の人権教育の推進について協議することで、教員が正しい知識・理解を深め、当該人権課題の学習につなげるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・進路アセンブリーで、進路実現に向けた心構えや価値観の違いや権利について取り扱った。
事業成果	【評価指標】 ・知識的側面 「差別についての歴史や現状を理解しています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：67.6% ⇒ 事業終了間際：73.2%） ・価値的・態度的側面 「様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：79.4% ⇒ 事業終了間際：80.5%） （アンケート否定的回答　事業開始時：　1.5% ⇒ 事業終了間際：　0　%） ・技能的側面 「誰に対しても公平です。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：70.6% ⇒ 事業終了間際：70.7%） 【生徒変容の分析】アンケート実施結果及び生徒の様子等から ・正しい知識を得ることで、自分のこととしてとらえるなど、理解が深まった。 ・様々な場面や講演などを通して、自分や周りの人を大切にし、尊重する大切さを学ぶことができた。 ・新宮市は子ども会の活動が活発であり、同和問題を知る機会や初等教育の段階から身近に学ぶ機会が多い。現在でも差別で苦しんでいる人たちが存在していることを確認し、差別を生まない態度を育成できた。 【その他】 ・東牟婁学習支援推進教員連絡協議会に参加し、小中学校・地域・市役所（子ども会）に人権教育の取組の状況や概要を報告、情報交換し、協議を行った。 ・同和問題について、これまでの小中高等学校の学習経験内で、深い学習活動の経験がない教員もおり、世代や出身地域によって、同和問題の捉え方に差異がみられた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	和歌山県	学校名	和歌山県立新翔高等学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	１学年 地理総合・歴史総合	時数等	７時間

目標・人権教育のねらい	・世界の地理的な多様性（地形や気候・文化）を知り、他者理解の土壌を育む。 ・差別の歴史を知り、他国の現状や課題、取組について理解を深める。
実施した内容	・ケッペン気候区分の学習を通して、日本との気候や文化の違いを写真資料の読み取りを通して文章で表現し、文化の多様性を学ぶ。（４時間） ・プランテーションの学習に際し、植民地の歴史的な背景や地域の持続可能性の問題などに触れる。（１時間） ・帝国主義時代の植民地差別について学習し、歴史が現在にも影響を与えていることに気づく。（１時間） ・公民権運動の学習の際、キング牧師のスピーチを資料として提示し、社会的背景を踏まえて読み取る。（１時間）
工夫した点	・気候・地形の多様性が生活・文化の多様性に繋がること、日本の生活・文化・考え方が当たり前ではないことを繰り返し確認した。 ・全体指導及び机間指導において、教科指導の内容だけではなく、当該人権課題に関連付けて普段の接し方・振る舞いが発するメッセージが大切であることを意識させた。 ・差別が現在だけのものではなく歴史的な背景を持つことで様々な背景や文化形成が複合的に絡み合っていることに着目させた。 ・公民権運動とともにカウンターカルチャーなどに触れ、様々な人権問題に通じる問題構造にも思いをはせ、生徒自身の参政権などにも通じる問題であることに気づかせた。 ・外国にルーツを持つ生徒がいることにも配慮しながら、当事者と共に学ぶことにより、異文化理解や共生の姿勢を育むようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・地理総合や歴史総合で、教科横断的なつながりを意識させ、多様な文化や社会問題について生徒たちにレポート課題を課した。
事業成果	【評価指標】 ・知識的側面 「差別についての歴史や現状を理解しています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：67.6% ⇒ 事業終了間際：73.2%） ・価値的・態度的側面 「様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：79.4% ⇒ 事業終了間際：80.5%） （アンケート否定的回答　事業開始時：　1.5% ⇒ 事業終了間際：　0　%） ・技能的側面 「自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：52.9% ⇒ 事業終了間際：53.7%） 【生徒変容の分析】アンケート実施結果及び生徒の様子、レポート課題等から ・文化の多様性に繋がること、日本の生活・文化・考え方が当たり前ではないことを理解することができた。 ・差別があった事を踏まえて、世界ではどのような運動が起こっていたかを知ることで、歴史や現状を理解することができた。 【その他】 ・外国人の人権に係る講演では、「学校のサンクチュアリ～多様性社会の人権と教育について～」と題して講演していただいた。現在の外国ルーツの子どもたちを取り巻く環境や制度の現状や、学校が子ども、保護者、地域にとって貴重な社会資源であることなどについて教員も学ぶことができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	和歌山県	学校名	和歌山県立新翔高等学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	全学年・LHR・情報科	時数等	３時間

目標・人権教育のねらい	・インターネット上のトラブルの事例を知り、巻き込まない、巻き込まれないようにするにはどのような方法があるかを知る。 ・インターネット上における様々な人権問題について学習することを通して、互いに人権を尊重しながらよりよい人間関係を築いていこうとする。 ・IT機器の積極利用を進める一方で特性を理解し、適切に活用しようとする。
実施した内容	・情報機器の取り扱いなどを通じてメディアリテラシーについて学ぶ。（１時間） ・情報モラルの視点を中心として、SNS等で想定される人権侵害トラブルについて学ぶ。（１時間） ・情報モラル講座では、高校生が巻き込まれやすい人権侵害トラブルの事例を知り、SNS等の情報がどれだけ個人を特定する力をもつかを実践的に理解する。（１時間）
工夫した点	・生徒達にとって身近なSNSを事例に取り上げ、取り組みやすいように工夫を行った。 ・授業や講演会などを通して、実例を取り上げながら同世代間でのインターネットトラブルにどのような事例があるか、それを回避するためにはどうしたら良いか、実践的に取り組む手立てを設けた。 ・教科指導において積極的にインターネットや情報機器を活用するために、全教員がタブレット機器を活用した授業の取り組みを行い、職員間や他校の教員に公開し、授業の協議や改善を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・教科指導や産業社会と人間、総合的な探究の時間などで積極的にタブレット機器を活用し、情報収集や分析をするとともに、プレゼンテーション作成ソフトを用いて成果発表を行った。 情報の取り扱いや、他者への人権侵害に対する配慮を心がけるように指導した。
事業成果	【評価指標】 ・知識的側面 「友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切です。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：88.2% ⇒ 事業終了間際：90.0%） ・価値的・態度的側面 「様々な価値観を尊重しようとする態度を身につけています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：79.4% ⇒ 事業終了間際：80.5%） （アンケート否定的回答　事業開始時：　1.5% ⇒ 事業終了間際：　0　%） ・技能的側面 「自分の考えをわかりやすく友達に伝えることができます。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：52.9% ⇒ 事業終了間際：53.7%） 【生徒変容の分析】アンケート実施結果及び生徒の様子等から ・情報収集にあたって、様々な価値観を尊重するとともに、知的財産権や配慮しなければならない人権課題について向き合うことができた。 ・意見や調べたことを相手に伝える技術に自信がなかった生徒も多かったが、授業や講演を通じて「相手の立場に立ってわかりやすく伝える」技術や視点を学び、自分の考えをわかりやすく伝えようとする態度を身につけることができた。 【その他】 ・令和６・７年度文部科学省委託和歌山県人権教育研究推進事業人権教育研究指定校事業研究発表会で情報リテラシーに関する公開授業を実施し、授業改善につなげた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	和歌山県	学校名	和歌山県立新翔高等学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	全学年・LHR	時数等	３時間

目標・人権教育のねらい	・多様な性自認が存在することを知り、現在その人たちが置かれている状況や課題を知る。 ・性差による課題や向き合い方に触れ、自分や自分の周囲にいる人たちとの関わり合い方について見つめ直す。
実施した内容	・性教育講座では、思春期にそれぞれの性別で起こりうるトラブルや悩みについて学ぶ。（１時間） ・LGBTQ講演では、多様な性について学ぶ。（１時間） ・デートDV防止講演では、お互いの心と体の尊重について学ぶ。（１時間）
工夫した点	・様々な場面や事例を通じて、自分の性や周りの人たちの性について考える機会を設けた。 ・当事者である講師先生たちの経験談をもとに、学んだことを踏まえて、生徒自身がこれからどうするべきか、周囲に悩んでいる人がいればどのような態度で受け入れるかなど、考える機会を設けた。 ・性やDVについて学び、お互いを尊重し合うことができる人間関係の築き方について考える機会を設けた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・保健の授業では「生涯を支える健康」の単元で性による男女の身体の仕組みや妊娠出産について、家庭科の授業では「人生をつくる」「共に生き、共に支える」単元でジェンダーや性自認について関連付けて学習した。
事業成果	【評価指標】 ・知識的側面 「様々な価値観をもった人々と暮らしていることを理解しています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：86.8% ⇒ 事業終了間際：90.2%） ・価値的・態度的側面 「ありのままの自分を、大切な存在であると受け止めようとしています。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：75.0% ⇒ 事業終了間際：75.6%） （アンケート否定的回答　事業開始時：　4.4% ⇒ 事業終了間際：　2.4%） ・技能的側面 「誰に対しても公平です。」 （アンケート肯定的回答　事業開始時：70.6% ⇒ 事業終了間際：70.7%） 【生徒変容の分析】アンケート実施結果及び生徒の様子等から ・性の多様性に気づき、自分らしく生きる大切さを学ぶことができた。 ・デートDV防止講演後に書いた講演者の方に向けた任意のアンケートから （＊交際相手との関係や性別のこと、お互いの事を思いやる大切さなどの感想を書いてた。 ＊ジェンダーの観点からも自分や交際相手、その他周りの身近な人たちとの関わり合いを自分なりに見つめ直している様子が見られた。） ・相手に自分の意思や意見を伝えることの大切さ、またそれを受け入れる気持ちや態度について考え、それを実行することの大切さに気づくことができた。 【その他】 ・性教育講座及びLGBTQ講演、デートDV防止講演という様々な当事者の講師先生たちの経験談をもとに学習する中で、教員も性の多様性やジェンダー等の観点から学ぶことができた。